

2024年3月4日

東京都千代田区紀尾井町3-12
アイティメディア株式会社
代表取締役社長 大槻利樹
(東証プライム市場、証券コード:2148)

国内最大級のAI専門情報サイト「ITmedia AI+」オープン

https://corp.itmedia.co.jp/pr/releases/2024/03/04/itmedia_aiplus/

アイティメディア株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:大槻利樹)は、本日、国内最大級のAI専門情報サイト「ITmedia AI+ (アイティメディア・エーアイプラス <https://www.itmedia.co.jp/aiplus/>)」を開設したことを発表します。

ITmedia AI+ (アイティメディア・エーアイプラス)

<https://www.itmedia.co.jp/aiplus/>

ITmedia A +

メディア AI+ — AI活用のいまが分かる —

速報 生成AI データ分析 計算資源 ロボティクス

記事ジャンル

活用目的別

- ▶ 業務効率化・自動化
- ▶ 意思決定支援
- ▶ 顧客体験向上
- ▶ 製品開発
- ▶ 研究動向

導入前後の課題

- ▶ セキュリティ・プライバシー
- ▶ データ収集・整形
- ▶ 組織文化・人材育成
- ▶ 法規制・倫理

RANKING

- 1 作業を依頼→Copilotが手順を考え、Windowsデスクトップで“自動RPA” Windows 11に新機能「Power Automate via Copilot in Windows」
- 2 文化庁、「AIと著作権に関する考え方について(素案)」のパブコメ結果発表 意見提出数は2万4938件
- 3 「2024年は生成AI飛躍の年」——日本マイクロソフトが予告 推奨するのは“AIの筋トレ”
- 4 国内初「生成AI専用保険」を提供へ あいおいニッセイ海上が発表 情報漏えい時の費用などを負担

Microsoft

watsonx

「2024年は生成AI飛躍の年」——日本マイクロソフトが予告 推奨するのは“AIの筋トレ”

AI基盤モデル「Granite」に日本語版登場 日本IBMが提供 ビジネス活用に特化、RAGなどの利用を想定

■ITmedia AI+開設の背景

この1年間で、生成AIほど注目を集めたテクノロジートピックはありません。アイティメディアが2023年12月に実施したアンケート調査では、回答者の64.5%が既に業務で生成AIを活用しており、「活用していないが関心はある」との回答を含めると93.6%と大変な関心を集めています。

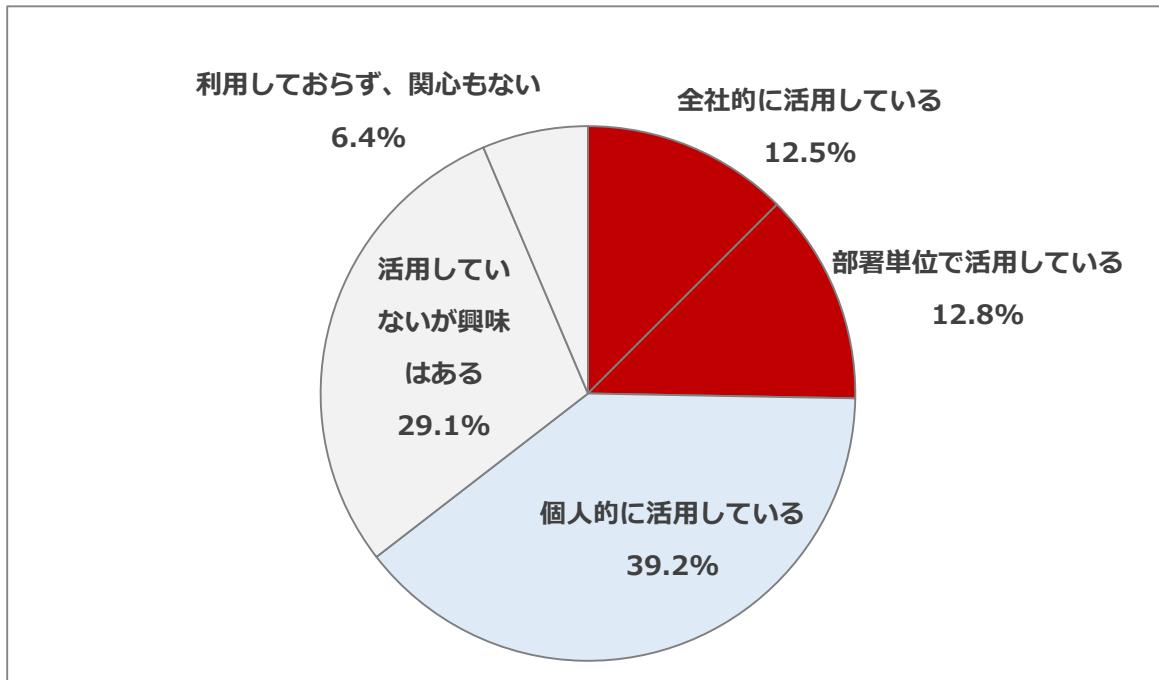


図1. 業務でChatGPTなどの生成AIを活用していますか？(N=344)

一方、企業における生成AI活用のための課題としては、セキュリティやコンプライアンス、知見の不足が挙げられています。

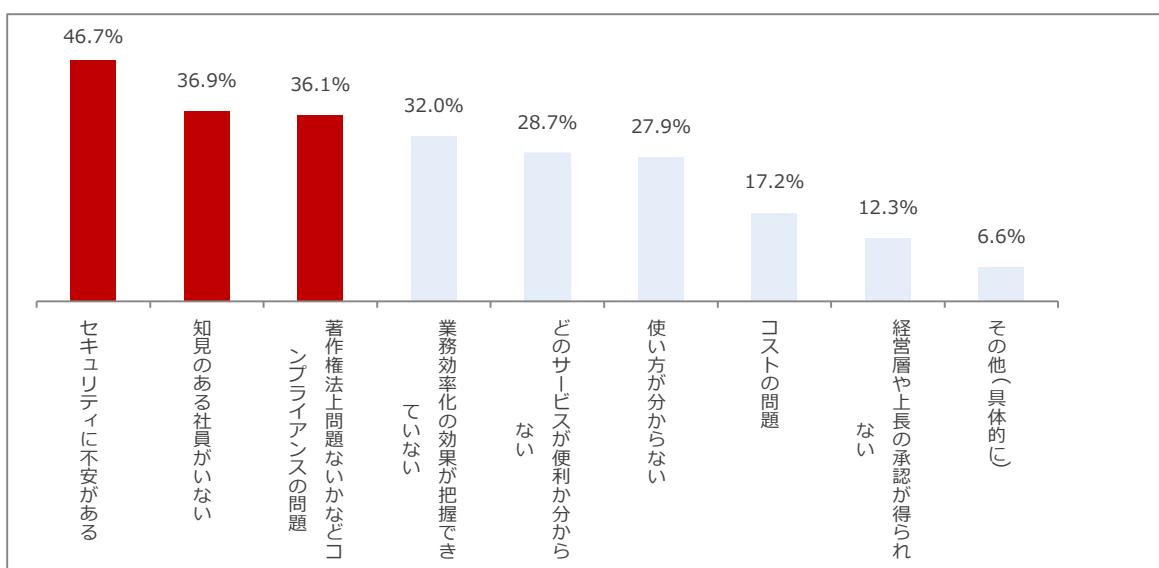


図2. 業務で生成AIを活用していない理由として、当てはまるものがあれば教えてください。(複数回答 n=122)

このような状況に対し、いかに企業が生成 AI を活用しイノベーションを実現していくのか、活用の事例と活用を妨げる課題の解決につながる情報を集約し、AI 専門情報サイト「ITmedia AI+」を開設します。

■ ITmedia AI+の概要

ITmedia AI+の前身は、ITmedia NEWS 内のコーナーとして好評を博していた「AI+」です。本日より ITmedia NEWS からは独立した専門情報サイトとして開設します。

ITmedia AI+では、独自記事に加え、当社の各運営メディアの AI 関連記事を集約します。生成 AI を中心とした AI のビジネス活用にフォーカスし、各業界の業務改善や新規事業の応用事例、活用方法、機能比較、セキュリティや政府・規制動向といった情報を読者に日々届けることで、企業の AI 活用をサポートします。IT エキスパートのための問題解決メディア「@IT(アットマーク・アイティ)」や世界のエレクトロニクス技術の最新動向がわかる「EE Times Japan」など当社の各専門メディアとの連携により、基盤モデルや技術開発の動向に加え、ロボティクスや半導体、データセンターを含む計算資源など生成 AI の周辺情報についても多面的に掲載していきます。

下記のようなコンテンツが掲載されています。

・文化庁の「AI と著作権の考え方」を理解するための“3 つのポイント” 弁護士が簡潔に解説
<https://www.itmedia.co.jp/aiplus/articles/2403/04/news043.html>

・NEC が生成 AI ビジネスに取り組むワケ 激化する“基盤モデル”開発競争を勝ち抜くための戦略とは？
<https://www.itmedia.co.jp/aiplus/articles/2403/04/news042.html>

・「自社版 ChatGPT」をグループ全社導入 約 1 万 5000 人で 2 カ月使った手応えは？ ベネッセに聞いた
<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2306/19/news037.html>

・「2024 年は生成 AI 飛躍の年」——日本マイクロソフトが予告 推奨するのは“AI の筋トレ”
<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2402/29/news075.html>

■ ITmedia AI+編集長 井上輝一のコメント



生成 AI により、かつてない形で社会が変わろうとしています。

人と同等かそれを超える知能とされる汎用人工知能の実現にはまだ至っていないものの、ChatGPT や Stable Diffusion を皮切りに爆発的な進化を続けている生成 AI は、すでに人類の何割かを上回る文章や画像の生成能力を持つています。

これらがコンテンツ産業をはじめ、多くの産業に入り込み、その構造を変えていくであろうことは想像に難くありません。

一方、だからと言って各社がすぐに取り入れられるかというと課題もあります。どう取り入れたらビジネスが加速するのか。取り入れるリスクはどの程度あるのか。自社固有の事情を AI にどう理解させるのか。どうすれば全社的な利用が進むのか。

こうした疑問や探求ニーズに対し、アイティメディアの総力を挙げ、AI のビジネス活用をサポートしていくのが ITmedia AI+ の使命です。

アイティメディアでは、ITmedia AI+ の開設を記念し、広告商品についても特別プランを展開しています。今後もテクノロジートレンドに沿ったコンテンツの強化を図ることで価値ある情報を読者の皆様にお届けするとともに、連動した多様なマーケティングソリューションの提案を強化することでさらなる成長を加速させていきます。

以上

<本リリースに関するお問い合わせ>

アイティメディア株式会社 広報担当

<https://corp.itmedia.co.jp/pr/inquiry/>

■ アイティメディア株式会社について

<https://corp.itmedia.co.jp/>

テクノロジー関連分野を中心とした情報やサービスを提供する、インターネット専業のメディア企業。月間約 5,000 万ユニークブラウザで利用されています。IT 総合情報ポータル「ITmedia

(<https://www.itmedia.co.jp/>)」、企業向け IT 製品の総合サイト「キーマンズネット」(<https://kn.itmedia.co.jp/>)」、IT エキスパートのための問題解決メディア「@IT(アットマーク・アイティ)、<https://atmarkit.itmedia.co.jp/>)」をはじめ、ターゲット別に数多くのウェブサイトを運営。IT とその隣接領域を中心に、各分野の専門的なコンテンツをいち早く提供します。

[東証プライム市場、証券コード:2148]